

2020年(令和3年度)
福岡県教員採用試験 教職教養

【人文科学(国語)】

次のことわざ・慣用句とその意味の組合せとして、誤っているものを一つ選びなさい。

	ことわざ・慣用句	意味
①	泡を食う	驚き慌てること
②	顔が立つ	広く世に知られること。
③	尻馬に乗る	無批判に人の行動に便乗すること
④	胸がすく	気分がすっきりすること
⑤	立て板に水	弁舌がすらすらとよどみないこと。

2020年(令和3年度)
福岡県教員採用試験 教職教養

【自然科学(数学)】

3枚のコインを同時に投げるとき、少なくとも1枚裏が出る確率を求め、正しい答えを選びなさい。

- ① $\frac{1}{8}$ ② $\frac{1}{4}$ ③ $\frac{5}{8}$ ④ $\frac{3}{4}$ ⑤ $\frac{7}{8}$

2020年(令和3年度)
福岡県教員採用試験 教職教養

【教育法規】

次の(1)～(3)の各分は、日本国憲法の条文の一部を抜粋したものである。文中の(ア)～(エ)に当てはまる語句の正しい組み合わせを選びなさい。

(1) 国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない(ア)として、現在及び将来の国民に与えられる。

(2) すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、(イ)に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

(3) この憲法の改正は、各議員の総議員の(ウ)の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案して、その承認を経なければならない。この承認には、特別の国民投票又は国会の定める選挙の際行はれる投票において、その(エ)の賛成を必要とする。

	ア	イ	ウ	エ
①	永久の権利	公共の福祉	三分の二以上	過半数
②	固有の財産	公共の福祉	過半数	三分の二以上
③	永久の権利	人権尊重の精神	三分の二以上	過半数
④	永久の権利	人権尊重の精神	過半数	三分の二以上
⑤	固有の財産	人権尊重の精神	三分の二以上	過半数

2020年(令和3年度)
福岡県教員採用試験 教職教養

【教育時事】

次の各分は、「令和元年度版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」(環境省)の一部を抜粋したものである。文中の(ア)～(エ)に当てはまる語句の正しい組合せを選びなさい。

近年、気温の上昇、大雨の頻度の増加や、農作物の品質低下、動植物の分布域の変化、(ア)リスクの増加など、気候変動及びその影響が全国各地で現れており、さらに今後、長期にわたり拡大するおそれがあります。地球温暖化その他の気候変動に対処し、国民の生命・財産を将来にわたって守り、経済・社会の(イ)な発展を図るためには、緩和策((ウ)ガスの排出削減等対策)に全力で取り組むことはもちろんのこと、現在生じており、また将来予測される被害の回避・軽減を図る適応策にも取り組み必要があります。

プラスチックは、その機能の高度化を通じて(エ)の削減やエネルギー効率の改善等に寄与し、例えば、我が国の産業界もその技術開発等に率先して取り組むなど、こうした社会的課題の解決に貢献してきました。一方で、金属等の他素材と比べて有効利用される割合は、我が国では一定の水準に達しているものの、世界全体で見れば未だ低く、また、不適正な処理のため世界全体で年間数百万トンを超える陸上から海洋へのプラスチックごみの流出があると推計した研究もあり、地球規模での環境汚染が懸念されています。

	ア	イ	ウ	エ
①	感染症	統合的	バイオマス	オゾン
②	感染症	持続可能	温室効果ガス	オゾン
③	熱中症	持続可能	温室効果ガス	食品ロス
④	熱中症	持続可能	バイオマス	食品ロス
⑤	熱中症	統合的	温室効果ガス	オゾン

2020年(令和3年度)
福岡県教員採用試験 教職教養

【教育原理】

次の文は、「不登校児童生徒への支援に関する最終報告～一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進～」(平成28年7月不登校に関する調査研究協力者会議)の一部を抜粋したものである。文中の(ア)～(オ)に当てはまる語句の正しい組合せを選びなさい。

不登校については、児童生徒本人に起因する特有の事情によって起こるものとして全てを捉えるのではなく、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要がある。また、不登校という状況が継続し、結果として十分な支援が受けられない状態が続くことは、(ア)の低下を招くなど、本人の(イ)や社会的自立のために望ましいことではないことから、支援を行う重要性についても十分に認識する必要がある。豊かな人間性や社会性、生涯を通じた学びの基礎となる学力を身に付けるなど、全ての児童生徒がそれぞれの(ウ)を図り、社会の構成員として必要な(エ)の育成を図ることは喫緊の課題であって、早急に不登校に関する具体的な支援策を講じる必要がある。

不登校の要因や背景としては、本人・家庭・学校に関わる様々な要因が複雑に絡み合っている場合が多く、更にその背後には、社会における「学びの場」としての学校の相対的な位置付けの低下、学校に対する保護者・児童生徒自身の意識の変化等、社会全体の変化の影響が少なからず存在している。

そのため、不登校を教育の観点のみで捉えて対応することには限界があるが義務教育段階の児童生徒に対して教育が果たす役割が大きいことを考えると、不登校に向き合って懸命に努力し、成果を上げてきた関係者の実践事例等を参考に、不登校に対する取組の改善を図り、学校や教育関係者が一層充実した指導や家庭への働き掛け等を行うことで、学校教育としての(オ)が果たされることが望まれる。

	ア	イ	ウ	エ	オ
①	学習意欲	進路	自己実現	実践力	責務
②	自己肯定感	学校(学級)復帰	個性の伸長	実践力	目的
③	自己肯定感	進路	自己実現	資質・能力	責務

2020年(令和3年度)
福岡県教員採用試験 教職教養

④	学習意欲	学校(学級)復帰	自己実現	実践力	目的
⑤	自己肯定感	進路	個性の伸長	資質・能力	目的